
死体を見た夜

竹園

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

死体を見た夜

【Nコード】

N8449J

【作者名】

竹園

【あらすじ】

読みきりのベリーショートで、一応試験作です。

ある日常のちよつとした一遍です。

暗めですが、まあ気軽にちよちよいと見てくれたら幸いです。

一刻も早く家から出たくて、ふっきれて家を出た。

一生懸命逃げてたら、何かにぶつかつた。

途端に立ち止まって、車のライトに照らされたそれを見ると、一人の死体が転がっていた。

よく見てみると、出血はまだ続いてる、体温がまだある。

もしかしたら、たった今死んだのか。

…あれ？

この顔、私に似てる。

着てる服も一緒。

なんで…??

少し、ぞくつとした。

おそろおそろ、もう一度その顔に触れる。

！

反射神経で私は離れた。

その時、顔に触れた一瞬だけ、頭に残ったメッセージ。

「私”が殺した。」

その時、後ろから警察に声をかけられた。

とたん、真っ青になった私はあわてて「ち、違うんです！これ……」

警察のライトが向けた先を見ると、

「あー、このごみがどうか？」

それは、小さいごみ袋と、その辺りからジュースが溢れていたものだっ

た。

あれ…なんだ、幻か??

「とにかく、もう遅いから帰りなさい。」

とりあえず、大きく安堵して、今日はそのまま家に帰った。

あの夜は少しどうにかしてたようだ。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、たんのう堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8449j/>

死体を見た夜

2010年10月29日16時23分発行